

6 面接のしかた

(1) カウンセラーの基本的態度

心理療法的カウンセリングの発達に寄与した、ロジャーズは、「クライアントの人格が健全な方向へ変化するのに必要なのは、セラピスト（治療者）のカウンセリング理論や、カウンセリングの技術、カウンセリングの学派などではない。それはクライアントに対するセラピストの態度である。セラピストの態度によって、クライアントはよくもなったり、わるくもなったりする。この場合の態度とは、①人間的な誠実な態度（自己一致）、②無条件積極的尊重（受容）、③共感的理解である。この三つの態度で接すれば、クライアントの人格は必ず健全な方向へ変化していく」と言っている。

この言葉からわかるように、カウンセリングにもさまざまな立場があるが、どの立場であろうとも、その中心をなすものは、相手の言葉を、相手の使っている意味において、理解しようとする態度であるということができよう。

(2) 基本的態度のチェックリスト

カウンセリングにおける基本的態度は、実際の場面において生きて働かなければ意味がない。そのために、以下のようなチェックリストにより評価し、反省してみるのがよい。

① 自己一致の調査（○印：よい ×印：よくない）

- 先生は、私が本当のことをききたいと思っている時は、言ってくれる。
- 先生は、自分の気持ちがどんな時でも私に接する態度が変わらない。
- 先生の話は、信頼できる。
- 先生は、自分の気持ちをごまかさずに、話をしてくれる。
- 先生は、私に正直に話をしてくれる。
- × 先生は無理に我慢して私の話をきいているだけだ。
- × 先生は、私の話を大げさだと受けとっている。
- × 先生は、私に好意をもっているようなふ

りをしている。

- × 先生は、私にかまわず、自分の感情を出しすぎる。
- × 先生は、私に対して色めがねを通して見ている。

② 受容の調査

- 私は、子供につきも暖かく接している。
- 私は、子供の気持ちがどうであろうと、態度に変わりはない。
- 私は、子供を他人と比較して見ていない。
- 私は、子供を信ずることができる。
- 私は、子供の問題を本当に考えている。
- × 私は、子供を障害者としてしか見ていない。
- × 私は、子供を自分の考えどおりにしようと思っている。
- × 私は、子供を軽べつしているようだ。
- × 私は、子供に自分の意見を押しつけているようだ。
- × 私は、子供について、その時によって気持ちが変わるようだ。

③ 共感的理解の調査

- 私は、子供の気持ちをそのまま感じている。
- 私は、子供が口で言えないような気持ちでも理解できる。
- 私は、子供の発言がよくわかる。
- 私の気持ちは、子供に通じている。
- 私は、子供の立場から考えられる。
- × 私は、子供にぴったりした話をしていない。
- × 私は、子供のものの見方がわからない。
- × 私は、子供の言うことを、時に違った意味に解釈している。
- × 私は、子供を自分の立場で解釈している。
- × 私は、子供を物指にあてはめて見ている。